

みちしるべ

日本福音ルーテル教会
九州教区女性会

発行代表者 岩切 旻世

編集者 財津 悠子

印刷所 ヤマダスピード製版

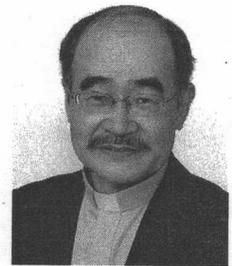
主題聖句

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」ローマの信徒への手紙 12章15節

一年が終わりますね。今年は、酷暑の夏の後、急な秋の冷え込み、体調はどうでしょうか？

身体は加齢とともに正直に衰えますが、ルーテル教会の女性会の「霊力」はすごいものがあります。唐津に赴任して、特に教えられたことの一つはそのことです。祈りのとても良い信者がおられて、随分支えられました。ここに来て「み言の分かち合い」という独自の聖書研究会を続けて、9年になります。もう300回ほどですが、多少の出入りはありますがほぼ同じメンバーで、平均7〜8人です。アブラハム物語から始めて、ペテロの生涯、ルカ伝、今はローマ書をしています。

内容は、デボーション(つまり



恵みの高齢化

唐津・小城教会牧師

箱田 清美

自分での聖句との対話、黙想)とその分かち合いという聖書研究です。時にわたしが神学的導きを話すこともありませんが、まずその方がその日の箇所とどう向き合ったかに、お互いに参加者で耳を傾けます。そして、最後に祈り会。古くからの信者の多い唐津教会ですが、中には、福音書にも目を通したこともない方、どう祈ったらよいか迷われる方、讃美歌も好きなものさえ分からないなど多様で、その中に祈りのとても良い方もおられました。わたしが講義するような聖書研究会をしなかったのは、この多様性の故でした。

300回も重ねると、霊的な力が付いてきたのでしょうか。祈りが

随分よくなり、好きな聖句、讃美歌など1、2ヶ所すぐに出るようになりました。参加者は女性会の方々ばかりですが、わたしが赴任当時すでに相当の年齢でしたので(失礼)、そのまま10年加齢しておられることになります。中には召天された方も3名。教会の高齢化、女性会の高齢化が言われますが、加齢が問題ではなく、長年教会に属していても霊力が身に付かないまま加齢してしまうのが課題なのではないでしょうか。わたしたち牧師の責任は、その点でも重いと思います。



シリーズ女性会のあゆみ

～これまでとこれから～

今、私たちが連なる九州教区女性会は、どのように歩んできたのでしょうか。そしてどう歩んでゆくのでしょうか。これまで女性会（婦人会）を支えてこられた姉妹の働き・憶いを共に振り返り、またこれからの女性会を担う世代の声を合わせてお届けします。



これまでのあゆみ
母に寄せて
博多教会 坂井 宣子

9月半ばごろでしたか、文書役員の方から「かつて教区連盟で長く役を担われたお母様の思い出を書いて下さい」と原稿用紙をいただきました。

母（大野福子）は博多教会で洗礼を受け、結婚式を挙げ、そして15年前に告別式もしていただきました。享年86でした。

早くからひとり暮らしだった母は、そのころラジオ放送をおこなっていたルーテルアワー九州事務所に勤務していました。現在引退牧師である白川清先生も、ご一緒に楽しく仕事をしていたことが心に残っています。

ところが、食生活と健康管理に無頓着だったのか、70歳を迎

えるころには糖尿病が進み、ひとり暮らしが困難になりました。やがて弟の家族と同居することになりましたが、そのころから教会の奉仕、婦人会の役は全くできなくなりました。数年後には、病院のお世話にならなければならず、長くて淋しい入院生活が始まりました。

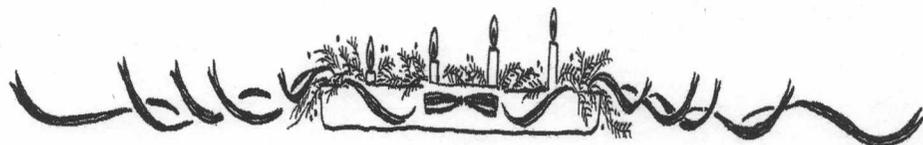
母が信仰に燃えて、元気いっぱいに教会の奉仕や婦人会の役を積極的に受けていたのは、たぶん50歳前後から10年余りだったのではないのでしょうか。私自身も、そのころ自分のことで変化していく時でした。結婚後大阪に移り住み、10年間福岡の地を離れていましたので、母の身辺のことなど理解していませんでした。

実は、母の生き様は娘の私から見て少々疑問に思っていました。母が受けていた教会での役や、教区連盟の仕事は大変な量だったのだろうと想像します。今の時代のようにパソコンはなく、書記は手書き、会計は算盤のみ。上京の必要があるときは、寝台特急でゴトンゴトンと時間をかけて行く。といった具合です。でも母にとつては、それらの苦労は苦労と思えないほど大きな喜びが与えられていたのでしょう。

そうであるならば、もう少し早めに、そして元気なうちに他の方々に交代することが必要だったのではないのでしょうか。大きな喜びはみんな分ち合うこと、共有することが大切だと思ふからです。

今、役を担っておられる皆様健康を支えられて、任期満了の日を笑顔で迎えられますようお祈りしています。

箱崎教会「女性の会」は、30代から90代のメンバーで構成されています。毎月開催される定例会・仕事会・聖書の学びだけでなく、愛餐・バザーなど教会の行事・奉仕など多くの活動の中から自ら出来ることをしています。私もメンバーの一員ですが、教会の中では子どもたちを中心に関わることが多く、落ち着いて会の活動に出ることが出来ない状況です。このことが気がかりで悩んだ時期もありましたが、会長



さんをはじめ、メンバー一人ひとりにお支えいただき本当に感謝しています。皆さんの聖書に学び、明るく笑顔で、生き生きと活動しておられる姿に沢山のことを教えられ、私自身そして子どもたちも大きな力を得ています。



「女性の会」に支えられて

これからのあゆみ

箱崎教会 和田 友

教会の台所の片付けや、会堂掃除の時などに、私はある姉妹に対して、「あつ！ありがとうございます。」と言ってしまう。すると姉妹は、「なにもありがとうじゃないのよ。教会のことをしているんだから。」とおっしゃいます。確かに私がお礼をいうのはおかしいことなのでしょうが、ついつい言ってしまうのです。なぜかというところの方は今年97歳になられるからです。50も年下の私が代わりに動かないでどうするんだ、という申し訳ない気持ちになっってしまうのです。

これからは、私は97歳になれるその姉妹に、年齢は関係なく、ともに働けることに感謝して、やはり「ありがとうございます。」と言ってしまうでしょう。「まだまだ頼りにしています。」と心の中で小さくつぶやきながら…。時間も場所も越えて、きつと神さまは私たちを繋げてくださると信じます。



神さまは繋げてくださる

これからのあゆみ

健軍教会 柴田 恵理子



社会奉仕部シンポジウム報告

知ること、そして祈ること

鹿児島教会 梅北 美智子

3・11から1年半経った9月、熊本で開かれたシンポジウム『地震・津波・原発事故とキリスト教』に参加しました。3人の先生方がそれぞれの立場からお話してくださいました。

立野牧師は、宮城県を中心に、震災直後からこれまでの状況とルーテル教会の救援活動について、たくさんのスライドを見ながら報告してくださいました。内藤牧師は、原発事故の実態、特に、決して報道されることの無い原発をめぐる状況を、スライドや資料を提示して話してくださいました。また、核兵器廃絶に取り組んでおられる広瀬氏は、震災をキリスト者としてどう受け止めるのか、どう関わっていくのか、原発や核について聖書はどう語っているのか、戦争、ナガサキを視野に話してくださいました。

した。

どの先生方も、重たい内容を分かりやすく、それぞれ1時間という限られた時間の中にギュッと詰め込んで熱く語ってくださいました。どのお話も心にズシンとくるもので、難しい宿題をたくさんいただきました。

被災地では、これまで心の奥にしまいこんでいたいろいろな感情も、一人ひとりの被災の状況の違いも、表に出てくるのはこれからでしょう。個別の支援が必要になる一方で、それが届きにくくなっているとも聞きます。九州は地理的に離れているために、十分なお手伝いが出来ず申し訳なく思います。これから関心を持ち続け、わたくしたちにも出来る支援を見つけて、なにより祈り続けていきたいと思えます。

熊本地区女性会

秋の集い報告

10月6日(土)10時より熊本教会にて8教会より60名近くの参加があり、朝比奈晴郎牧師による礼拝「重荷を共に負う方が」と題してみ言葉の糧をいただき、また讚美の時となりました。席上献金は「北上中学卒業アルバム復興プロジェクト」に用いられる予定です。

第二部は有村達之氏(九州ルーテル学院大学人文学部・心理臨床学科準教授)によって『うつ病について』どんな病気なのか、うつ病の方への対応の仕方、また自分自身との向き合い方など、症例を詳しく伺うことができました。

茶話会では、身近にうつ病の方がおられて苦悩していらっしやる方々のお話を聴き、心が痛みました。

神様の癒しのみ手がさしのべられますように、とお祈りしながら会場をあとにしました。

(加藤)

シルバープロジェクト

専門委員会のご紹介

7月24日(火)箱崎教会にて拡大会長会を行いました。連盟総大会を終えて、連盟に教区にどのようなつながっていくか、意見が交わされました。その中でシルバープロジェクト専門委員会の立ち上げと委員の推薦をし、会場の承認をいただきました。

委員長 谷口 美樹姉(大江)

河野 久美子姉(室園)

里村 朝子 (久留米)

シルバープロジェクト専門委員の働きを覚え、お祈りください。



左より、谷口姉、河野姉、里村姉

若いのに必要なものは!

熊本教会 森上 ハルミ

キャンプ2日目、災害ボランティアへ出掛ける子ども達の弁当作り間に合う様に、早朝より阿蘇へ向かった。途中、水害の爪痕が見え、心が痛む。子ども達が災害奉仕へ出発した後、我々キツチンスタッフは、教区役員の方々と、親しく交わりの時間を持つことができ、嬉しく思いました。夕食後、手際よく皿洗いする子、仲間にテキパキ指示を出し、コーディネートする子、若い力に私達も元氣をもらいました。

教会に若い人が少ないと嘆く前に、神の御言葉と出会う場所へ子ども達を送り出しましょう。心地よい疲れと共に、多くの恵みを頂いたキャンプに感謝いたします。

中高生キャンプの思い出

荒尾教会 山下 耕誠

私は、高校2年生です。中学3年に初めて参加して今年が3回目の参加でした。今年の中高生キャンプで一番

心に残ったプログラムは、ボランティア活動でした。九州北部大水害と名前が付くほど大きな災害が九州阿蘇を襲いました。現地はテレビでみるよりも悲惨な状況で、土砂崩れや川の氾濫が起こっており建物の中にまで沢山の土砂が流れてきていました。その瓦礫をキャンパー全員で運び出す作業を中心に行いましたが、その場所は一日では片付ける事は出来ませんでした。それほど災害は大きなものでした。

このキャンプでは友人が沢山出来ました。この素晴らしい友人達に出会えた事もキャンプには参加したいと思えます。



山を背にパーベキューをばくつく子ども達

折り鶴 千羽

甘木教会 本間 いぶ紀

8月7、8、9日の3日間、広島教会で行われたルーテル子どもキャンプに参加しました。私は昨年が続いて2回目の参加です。甘木教会からは、私と中尾ゆいちゃん、私が参加しました。キャンプ地が広島だったことから、平和について考えることができました。甘木教会は、千羽鶴を持って行きました。千羽鶴を持って行った理由は、おり紙で鶴を折っていた時、今度のキャンプは広島で、平和記念公園に行くって書いてあった。と思いい出したからです。千羽鶴は、教会学校のお友達だけでなく、教会の大人の方、他の教会の方も折って下さいました。こうして、なんとか千羽完成し、千羽鶴ができました。そして広島へ行き、平和記念公園の「原爆の子の像」のところに奉獻しました。奉獻したとき、私は千羽全部折り終える前に亡くなった、「原爆の子の像」のモデルの禎子さんの代わりに折った感じがしてうれしかったです。

このキャンプを通して、平和に対する思いが強くなった気がします。

筑後地区女性会

平和礼拝報告



原爆ドームの前で平和への思いを胸に

8月18日、筑後地区女性会平和礼拝が大牟田教会にて行われました。共に礼拝を守り、清田純次兄・嶋田雅俊氏による「傾聴ボランティア」についての講演を聴きました。傾聴活動は高齢化社会における御言葉の実践である、…傾聴すること、受容すること、共感すること、これこそ愛する事の具体化なのです、という言葉が大変印象的でした。高齢化・会員数の減少を悲観せず、できることを模索し信仰を高めていくという意気込みを感じました。

酷暑の中でしたが、小林茂子姉お手製の紫蘇ゼリーに涼を得、筑後地区の兄弟姉妹との交流を通してたくさんの恵みを頂いた集会でした。(岩切)

活動報告

- 第43期第2回常議員会陪席
6月27日 於 教区事務所
- 第2回役員会
7月3日 於 教区事務所
- 拡大会長会 19教会36名出席
7月24日 於 箱崎教会
- 中高生キャンプ 支援(5万円)
8月6~7日 於 阿蘇山荘
- 筑後地区女性会平和礼拝
8月18日 於 大牟田教会
- 第43期第3回常議員会陪席
8月30日 於 教区事務所
- 子どもキャンプ 支援(5万円)
8月7~9日 於 広島教会
- 第3回役員会
9月4日 於 教区事務所
- 壮年会連盟総会/社会奉仕部シンポジウム
9月21~22日 於 熊本教会
九州学院
- 熊本地区女性会 秋の集い
10月6日 於 熊本教会
- 第43期第4回常議員会陪席
10月16日 於 教区事務所
- 第1回シルバープロジェクト委員会
10月24日 於 大江教会
- 第4回役員会
11月13日 於 箱崎教会

拡大会長会の会計報告

7月24日拡大会長会 会計報告 於 箱崎教会

収入		
参加費	18,000	500円×36人
プール制負担金	38,000	2,000円×19教会
集会費より補充	14,960	
合計	70,960	
支出		
交通費	54,700	15教会
会場費	3,000	箱崎教会へ
茶菓子代	11,460	
印刷代 他	1,800	
合計	70,960	

第12回信徒大会のお知らせ



大会主題

「全きものとなる私たちの喜び」

主題聖句

「わたしたちの交わりは、御父と御子 イエス・キリストとの交わりです」
(1ヨハネ1:3b)

主題講演

「牧会おたすけマンが語る
素敵なクリスマスチャラライフ」
講師：黒田 朔先生
日時：3月19日(火)・20日(水)
会場：九州学院3号館3階ホール

皆さまどうぞご予定ください。

ご召天

- 中村 園姉 85歳 箱崎教会
2012年10月3日
- 田代 貞子姉 86歳 箱崎教会
2012年10月23日
- 盛川ナナヨ姉 99歳 田主丸教会
2012年11月5日

神さまのみもとでの平安をお祈りいたします。



☆編集後記にかえて

91号を発行したあと、各教区女性会の会報が送られてきました。各教区それぞれ特色があり、新米文書係の私にとって参考になりました。ここでご紹介いたします。

★東海教区「アガパンサス」

まず目に飛び込んできたのは表紙の美しいアガパンサスの花のカラー写真でした。2~7頁まで文章で埋まっていますが、写真やカットが大きく、割りふりの仕方がよく読み易くしています。連盟総会に2頁とついているのも特徴です。

★東教区「シャロンの花だより」

開いてみてびっくりしたのは、小泉嗣牧師(千葉教会)の髭面顔の大きな写真でした。どの頁にも写真のスペースが広く、楽に読めます。あまの「タ」がタと載せていないので感心しました。

★西教区「花みずき」

他の教区が全部A4に対してここだけがB5サイズです。連盟大会出席者の思いが言葉となり2頁にぎつり詰まっています。各教会にデータを送り、印刷してもらったのも経費のからならないやうかな?と思いました。

★北海道特別教区

「オリブニュース」
奇数月発行の月報タイプです。ニュースが古くならないうちに届けられます。7月初め発行号では全頁連盟大会に費いやして、少人数の教区ですが、思いは熱いことが伝わってきました。

ご覧になりたい方は、連盟HPからどうぞ。または、教区役員まで。

皆様の上にクリスマスの喜びと平和が豊かにありますように心からお祈りいたしております。来年も共に手をたずさえて、神様のご用のために励んで参りましょう。

財津 悠子

